

第1学年 国語科学習指導案

対 象 1年6組 男16名,女18名 計34名

指導者 村上 知代

1 単元名 「6組版～故事成語使用例集」を作ろう

教材名 いにしへの心に触れる 「今に生きる言葉」(光村図書 国語1)

2 単元について

(1) 生徒について

本単元に関わる既習事項について事前アンケートを行ったところ、次のような結果となった。

| | | | | |
|-------------------------------------|-----------------------|-----|------------|-----|
| 作文や感想文などの文章を書くことが得意だ。 | 得意 | 2人 | どちらかという得意 | 14人 |
| | どちらかという苦手 | 9人 | 苦手 | 8人 |
| 文章を書くときに、どんなことに気を付けて書いるか。 (複数回答) | 内容の順番(初め・中・終わりなど)を考えて | | | 19人 |
| | 自分の考えや気持ちを出すように | | | 18人 |
| | 読む人がわかりやすいように | | | 17人 |
| | 事実を正しく伝える | | | 7人 |
| | 表現を工夫する | | | 2人 |
| 小学校での古典学習への感想・印象。 | おもしろかった | 11人 | 内容はわかった | 13人 |
| | 難しかった | 7人 | 忘れた・覚えていない | 2人 |
| 知っている故事成語 | 五十歩百歩 | 10人 | 推敲 | 3人 |
| | 百聞は一見にしかず | 14人 | 傍若無人 | 0人 |

上記の表が示す通り、文章を書くことを苦手と感じ、抵抗感をもっている生徒は多い。また、特に漢語・熟語に関わる語彙が少なく、実際に生徒が書いた作文の貧弱さ(量, 内容)に気づかされることが多い。本単元では、学習のまとめとして、故事成語に関連する作文を書くという言語活動を設定し、目的や意図に応じ、日常生活に関わることなどについて、構成を考えて的確に書く能力をつけさせたいと考えて、この単元を設定した。

(2) 教材について

本単元に関わる既習事項は、「書くこと」の指導事項ア「考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること」と指導事項カ「書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うこと」である。具体的には、小学校6年生では、考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて書く事柄を収集し書くことに取り組んできた。中学校に入学してからは、伝える相手や目的を意識しながら、伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして書くことを中心に学習してきた。具体的には、詩の鑑賞文、ポップ、感想文等を書いた。

本単元を中心とする指導事項としては、書くことア「日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら、自分の考えをまとめること」とオ「書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること」を取り上げる。また、この事項と関連させて、[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]「(1)イ(イ)語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと、(ウ)事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと」を指導する。

(3) 指導について

本単元では、「日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること」をねらいとする。そのために故事成語に関連した小作文を書くという言語活動を位置づける。この言語活動では、故事成語を取り上げ、その内容と結びつくような日常生活で体験したことや見聞

きしたことを文章にまとめる。実際の故事は、はるか昔の中国が舞台ということが多く、生徒が読んでも実感が伴わず、理解しにくいものもある。そこで、現代生活の中で故事成語の意味に合うような例を文章化させる。生徒が書いた作品を「〇組版～故事成語使用例～」という形で小文集にまとめ、クラスで回覧したり、学年フロアや図書室などに置いて学年内で互いに読み合ったりする形をとりたいと考えている。自分の書いたものが文集という形に残り、学年の仲間や先生方に読まれるということで生徒の書く意欲を喚起したい。また、学年の仲間の作品を読むことで、更に今後の自分の表現や語感を磨くことにつなげたい。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

自分なりの関心に基づいて、故事成語の意味を踏まえた作文を書こうとする。

(2) 書くこと

学校や家庭での生活を振り返り、故事成語が表す意味と同じような、自分の日常生活での体験や見聞を生かして文章を書くことができる。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・ 故事成語を適切に引用しながら、使用例を文章に書くことができる。
- ・ 表現や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすくわかりやすい文章にすることができる。

4 指導と評価の計画

| 次 | 時 | 学習内容 | 国語への関心・意欲・態度 | 書く能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|----|-----------|--|--------------------------------------|---|---|
| 小6 | | 書く事柄を収集し、集めた事柄を整理してパンフレットを作成する。 | 書く事柄を収集し、集めた事柄を整理してパンフレットを作ろうとしている。 | 図表やグラフの特徴、効果を考えて用いている。 | 効果という観点から構成や表現を考えて書いている。 |
| 一 | 1 | 「故事成語」とは何かを知り、単元の見通しをもつ。漢文の特徴を知る。 | 学習計画を立て、見通しをもとうとしている。 | | 文語のきまりや漢文特有のリズム・言葉遣いに気づき読んでいる。 |
| | 2 | 教科書や便覧などで「矛盾」等いくつかの故事とそこから生まれた語の意味を理解する。 | 漢文の特徴や故事成語の内容に関心をもって読もうとしている。 | | 文語のきまりや漢文特有のリズム・言葉遣いに気づき読んでいる。 |
| 二 | 3 | 便覧や配付資料の中から故事成語の一つを選び、それを生かした作文を書く。 | 選んだ故事成語の意味を生かした現代版の故事（体験・使用例）を考えている。 | 故事成語の意味を正確に捉え、身近な出来事に引き付けた用例文を作っている。 | 資料から故事成語の意味や故事を読み取り、必要な内容を生かして作文を書いている。 |
| | 4 【本時】 | 前時に書いた作文をグループで読み合い、評価する。 | 故事成語の適切な使用例について、自分なりの評価をまとめようとしている。 | 互いの作品を読み合い、故事成語を適切に使った文について、その良さを理由とともに書いている。 | さまざまな故事成語の意味を理解するとともに、文脈の中で適切に使用することができる。 |
| 三 | 5 | 作文を清書し、学習の振り返りをする。 | 前時の交流を生かして、自分の作品をより良いものにしようとしている。 | 表記や語句の用法、叙述の仕方などを見直し、わかりやすい文章を書いている。 | |

| | | | | |
|----|--------------------------------|--|--|-------------------------------|
| 中3 | 古典の一説を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書く。 | 自分なりの関心に基づいて古典を鑑賞し、自分の体験や見聞と関連させながら、文章に書こうとしている。 | 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書いている。 | 古典の一部を引用しながら、鑑賞したことを文章に書いている。 |
|----|--------------------------------|--|--|-------------------------------|

5 本時の指導

(1) 目標 グループでの交流を通して、故事成語の適切な使用例について「ピタッと賞」の観点に基づき自分なりの評価をまとめて書くことができる。

(2) 評価規準

| 評価の観点 | 評価規準 |
|-----------------|---|
| 国語への関心・意欲・態度 | 故事成語に関心を持ち、その適切な使用例について自分なりの評価をまとめて書こうとしている。 |
| 書く能力 | 互いの作品を読み合い、具体的な場面・出来事と故事成語の意味との関連を考えながら、その良さを理由とともに書いている。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | さまざまな故事成語の意味を理解するとともに、文脈の中で適切に使用することができる。 |

(3) 展開

| 段階 | 学習活動 | ●指導上の留意点 ◎評価 |
|-----------|---|---|
| 導入 5分 | 1 前時の想起 2 課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 故事成語を使った作文を交流し合い、「ピタッと賞」を決めよう </div> | ●書き上げた作文を文集にして、展示することと、故事成語の意味に合う用例はどうあればよいか考えていくことを確認する。 |
| 展開 35分 | 3 課題の解決 (1) 作文をもっとわかりやすくするためにはどうしたらよいか、ポイントを確認する。 (2) 書いた作文を小グループで読み合い、交流する。ポイントにそって不明な点は質問し合ったり、意見を出し合ったりする。 (3) 故事成語の意味と紹介されている出来事や用例がピタッと合うものを選び、理由とともに書く。小グループ内の「ピタッと賞」を決める。 (4) 選ばれた人が自分の書いたものを発表する。グループの代表者が、選んだ理由や感想を発表する。 | ●「ピタッと」の観点を示す。「いつ・どこで・誰が・どうした」というような具体的な場面や状況・出来事と故事成語の意味がきちんと結びついているかどうか。 ◎グループでの交流を生かして、故事成語の適切な使用例について自分なりの評価をまとめて書いている。 ●ピタッとくる表現に着目して、あたたかく聴く。 |

| | | |
|--|---|--------------------------------------|
| 終末 10分 | 4 まとめ | |
| | 故事成語を使った作文（使用例）をよりわかりやすくするには <ul style="list-style-type: none"> ・「いつ・どこで・誰が・どうした」という具体的な場面や状況を明確にすること。 ・授業，部活，家で，友達付き合いなど具体的な場面を想定すること。 | |
| | 5 振り返り | ● 故事成語の働きや日常生活との結びつきを考えながら学習を振り返らせる。 |
| 【例】・昔の人の言葉だが，今の生活にも当てはまるのだと思った。 ・同じ故事成語を取り上げても，もともになる出来事や体験がいろいろあって面白い。 | | |
| 6 次時の確認 | | ● 交流での友達の意見を参考に手直しして，清書することを予告する。 |

(4) 板書計画

| | | |
|--|---|--|
| <p style="text-align: center;">振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の人の言葉だが今の生活にも当てはまる ・ 同じ故事成語でも，もともになる体験、出来事はいろいろだ | <p style="text-align: center;">まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業、部活、家、友達付き合いなど具体的な場面を想定する ・ 「いつ、どこで、誰が、どうした」をはっきり書くこと | <p style="text-align: right;">六組版故事成語使用例集を作ろう 【学習課題】</p> <p style="text-align: right;">故事成語を使った作文を交流し合い、「ピタッと賞」を決めよう</p> <p style="text-align: center;">交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作文をグループ内で読み合うポイント ・ 場面設定がはっきりしているか ・ 5W1Hがわかるか ・ 故事成語の意味と結びつくか |
|--|---|--|